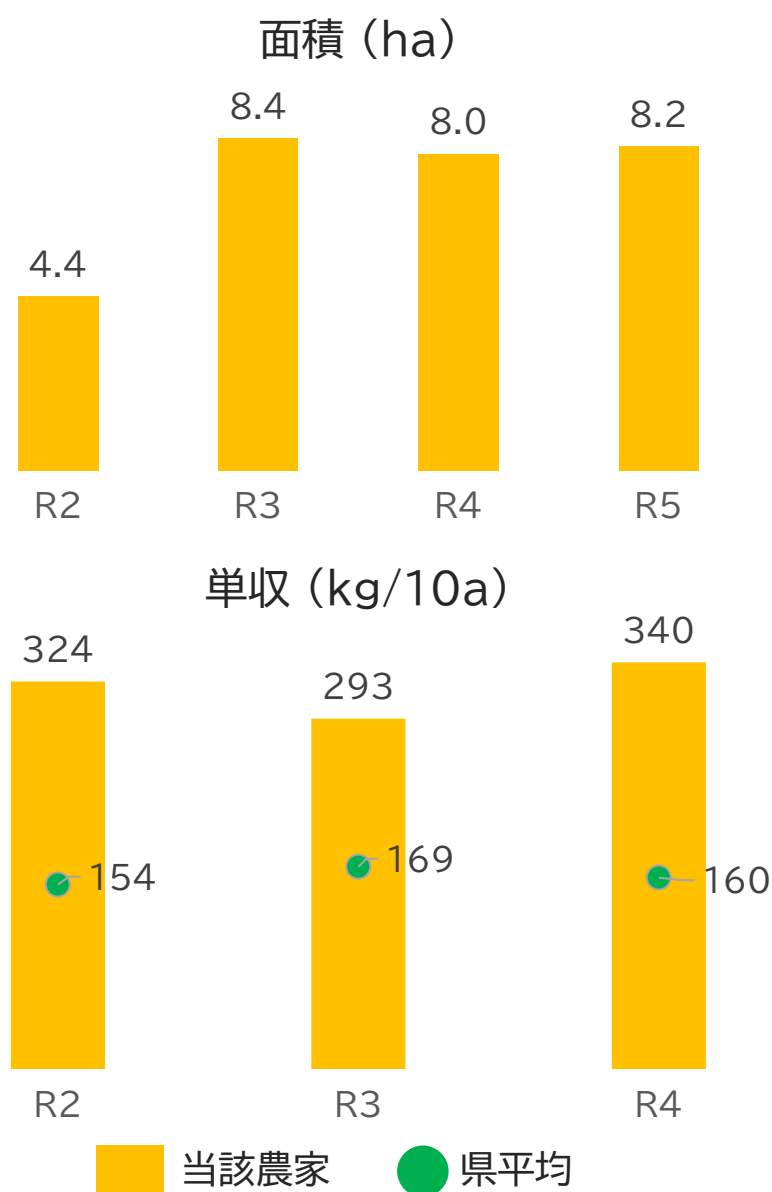


やすだ ひろき
安田 大樹(長野県安曇野市)



就農年月 2012年
基幹作物 大豆8.2ha(ナカセンナリ)、水稻(主食用、酒米、飼料用)15.0ha、
大麦10.0ha ※面積はR5年産
栽培体系 水稻－大麦－大豆(2年3作) ブロックローテーション有

大豆生産状況



栽培上の特色

- 大豆の出来高をみて水稻期間の調節を行い、限られた農地で最大の所得を得られるよう工夫。
- 開花期前に摘心を行い、着莢数の増大と倒伏防止に努める。
- 難防除草の発生を防止する為、こまめな巡回と手抜き作業を実施。
- ドローンを活用した防除作業を行い、作業時間を大幅に削減。

経営上の特色

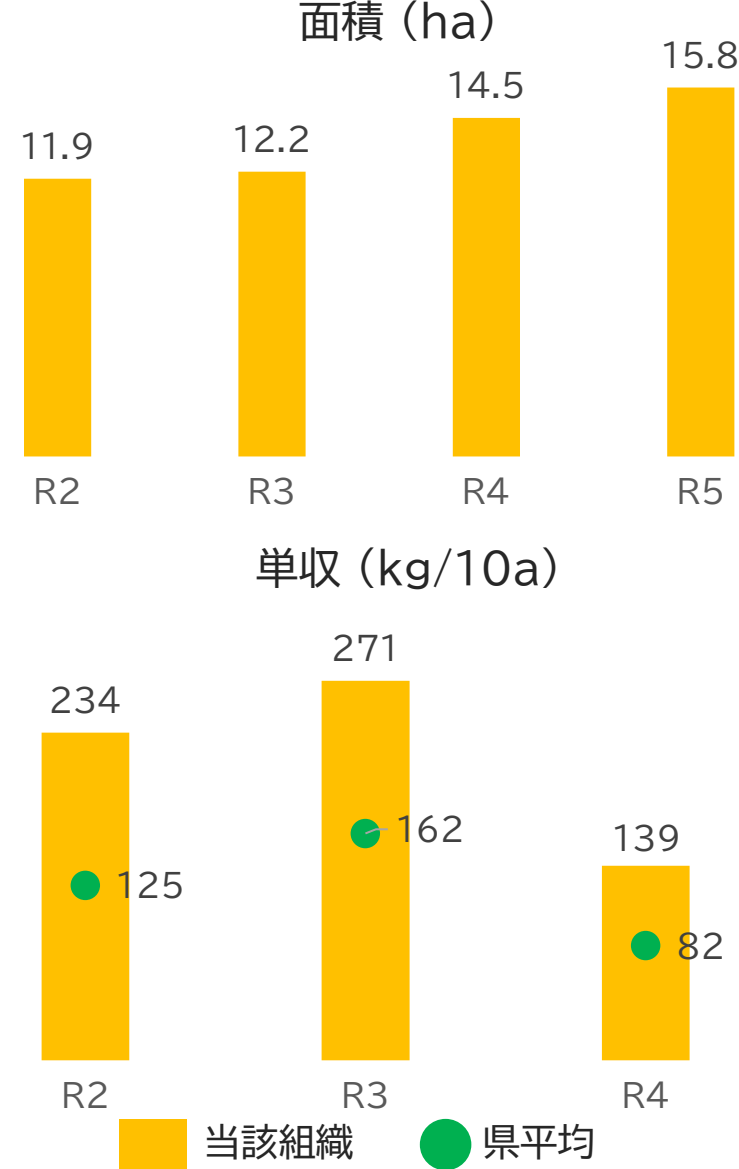
- 最新技術導入により、効率的・省力的な作業を行いつつ、手をかけるべきところには労力を投入することで、長期栽培可能な環境を整備
- 施肥、播種、排水対策を同時に高速度に行う機械の導入により、省力化を実現
- 地域の圃場整備計画にも大きく関わり、地域農地を引き受けることにより耕作面積50haまで拡大予定(7年後)

の ろ しゅうせい
野呂 修聖(青森県つがる市)

就農年	1997年
基幹作物	大豆15ha(おおすず、あきたみどり、秋試緑1号)、水稻(主食用)11ha ※面積はR5年産
栽培体系	大豆－水稻(一部、大豆－ブロッコリー) ブロックローテーション 有



大豆生産状況



栽培上の特色

- 早晩性の異なる品種の作付に加え、晩播狭畦栽培を導入し、作業分散を図り、安定生産を実現。
- 粃殻暗渠等の排水設備の点検・修復を欠かさない。
- 堆肥化した稲わらやくず大豆等による土づくり
- スタブルカルチ→アッパーロータリで耕起することで、下層は荒く、上層は細かい2層構造に仕上げ、播種床を均一に。

経営上の特色

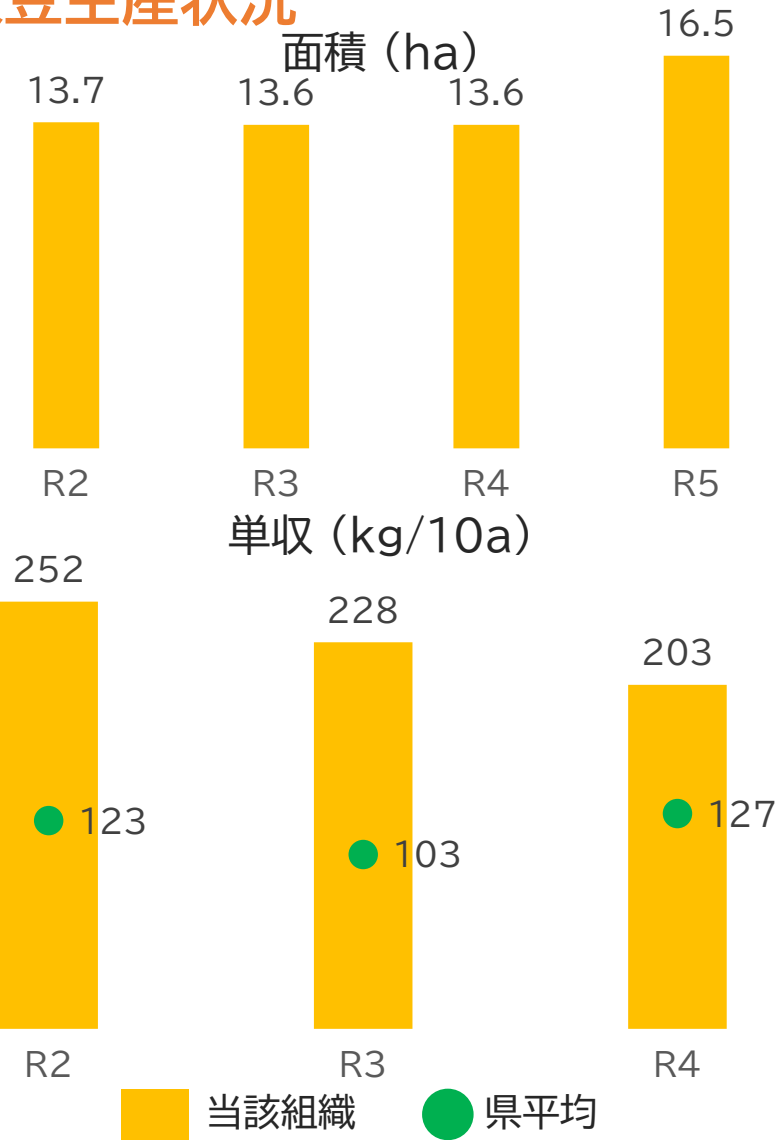
- 水稻、大豆を基幹とし、特に大豆を経営の柱としている。
- 作付年数は、春先の圃場の状況を見て臨機応変に対応。
- ブロッコリー跡に大豆を晩播栽培することで農地を有効活用。
- 平成26年からJAごしょつがる大豆部会長、平成27年から農業経営士として活動。栽培講習会や視察研修を企画提案し、地域の大豆栽培の底上げを図っている。

農事組合法人 ふくどみ(島根県出雲市)

設立年月	平成22年11月27日(平成5年4月に福富宮農組合として活動開始)
構成農家	17戸
基幹作物	大豆16.5ha(タマホマレ、サチユタカA1)、水稻(主食用)15.4ha、 大麦18.5ha ※面積はR5年産
栽培体系	水稻－大麦－大豆(2年3作) ブロックローテーション 有



大豆生産状況



栽培上の特色

- 天候を考慮した播種、刈り取りの適期作業や、生産状況に応じた除草手段の検討に努めている。
- 弾丸暗渠施工時に併せて石灰窒素の深層施肥を行う機械を工夫し、開花期以降の養分供給を可能にしている。
- 土壌に粃殻・有機物をすき込み、土の粘性を低減させることにより、中耕除草機による除草・土寄せの効果を向上させている。
- ドローンを導入し植物活性剤等の散布を実施。

経営上の特色

- 常に費用対効果を意識。播種量試験など各種取組を行い、利用資材の検討、無駄の少ない種子量決定などに努める。
- 近隣集落営農法人の防除や収穫を受託し機械の有効利用を図る。
- 栽培講習会や視察対応の中で栽培ポイントを説明し、他生産者の意欲向上に寄与。

アグリード株式会社(岐阜県本巣市)

設立年月

平成25年3月1日(法人化)

作業員数

6名

基幹作物

大豆17.5ha(フクユタカ)、小麦37.5ha
水稲(主食用、加工用、飼料用)92.6ha

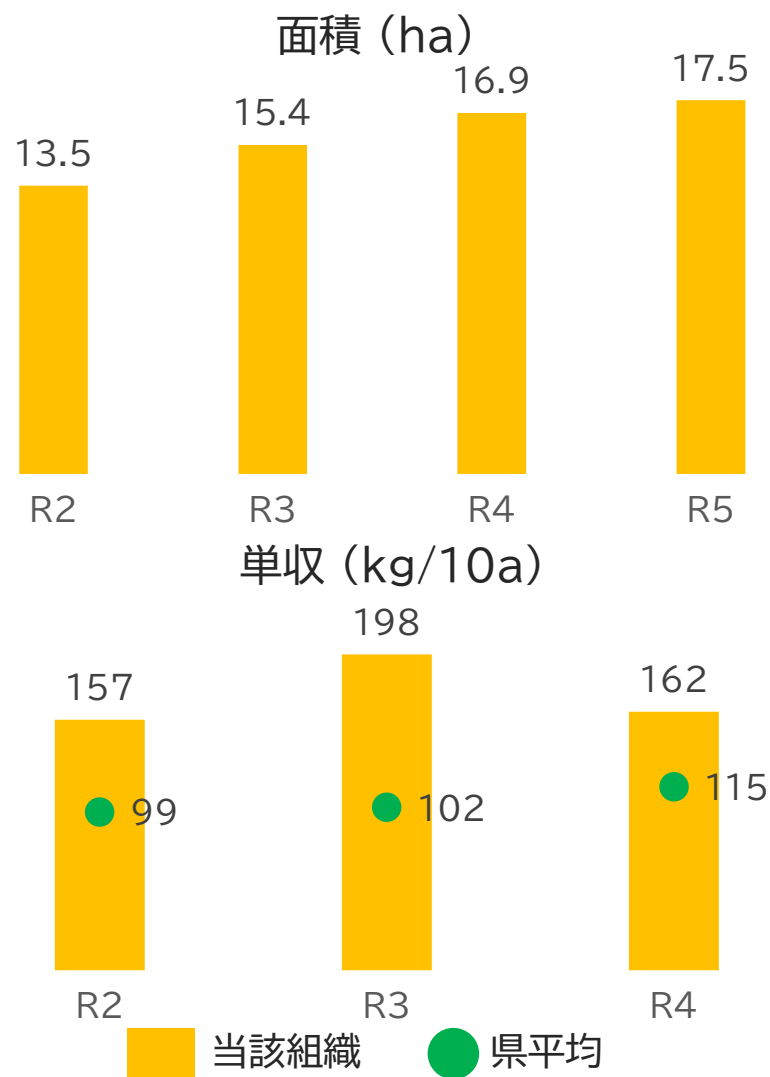
栽培体系

水稲-小麦-大豆(2年3作)

※面積はR5年産



大豆生産状況



栽培上の特色

- 「播種半作」をキーワードに計画し、輪作体系を確立。
- 自動操舵システムと整地施肥播種複合作業機を活用した高精度播種による狭畦密植栽培。
- 前作の小麦の収量コンバインから得たデータを大豆栽培に活用し、土づくりや排水対策に尽力。
 - ・小麦の水分が高く、土壌水分が原因の場合、当該圃場の排水対策を優先。弾丸暗渠や額縁明渠の施行方法を工夫。
 - ・収量が悪い場合、PK鷹、石灰窒素(苦土石灰)、鶏糞ペレットを施用。

経営上の特色

- 営農支援システム(KSAS)を活用し、計画の進捗や農作業記録などを社内でも共有。
- 地域の農地の受け皿として農地中間管理事業により農地を集約。
- 収支計画書を作成し、経営の見える化に取り組む。

栄北部株式会社(新潟県三条市)

設立年月

平成19年4月27日(法人化)

構成農家

286戸

基幹作物

大豆122ha(里のほほえみ)、水稻(主食用)239ha

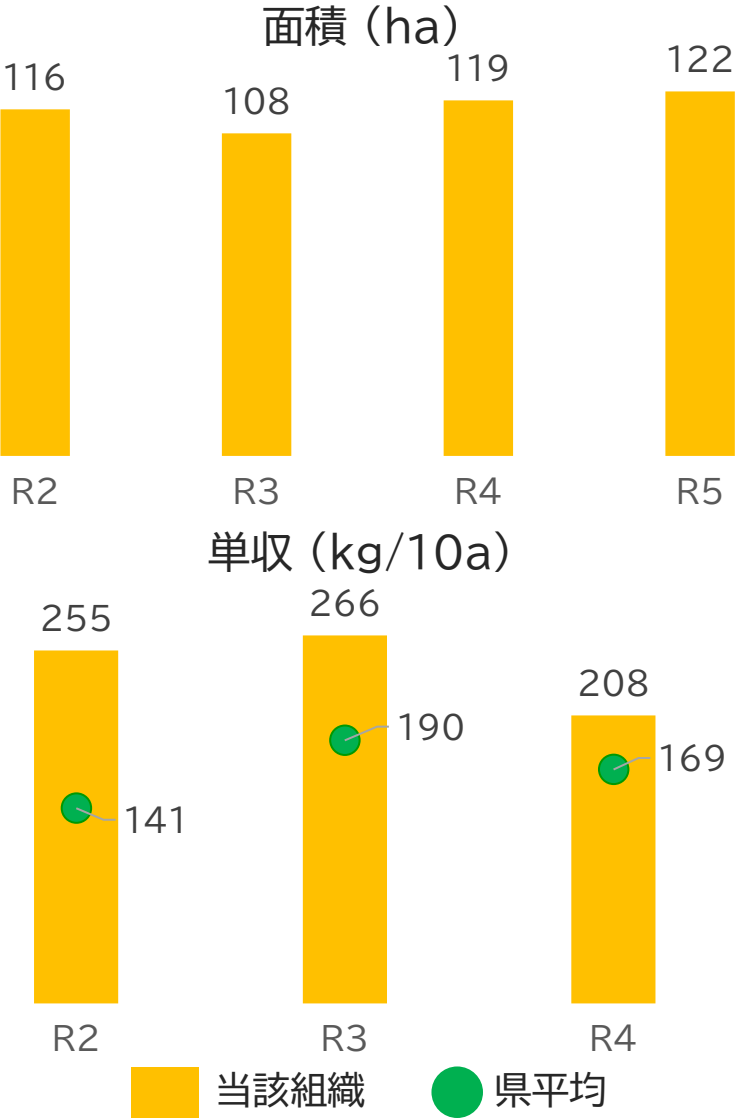
※面積はR5年産

栽培体系

大豆－水稻(早生)－水稻 ブロックローテーション 有



大豆生産状況

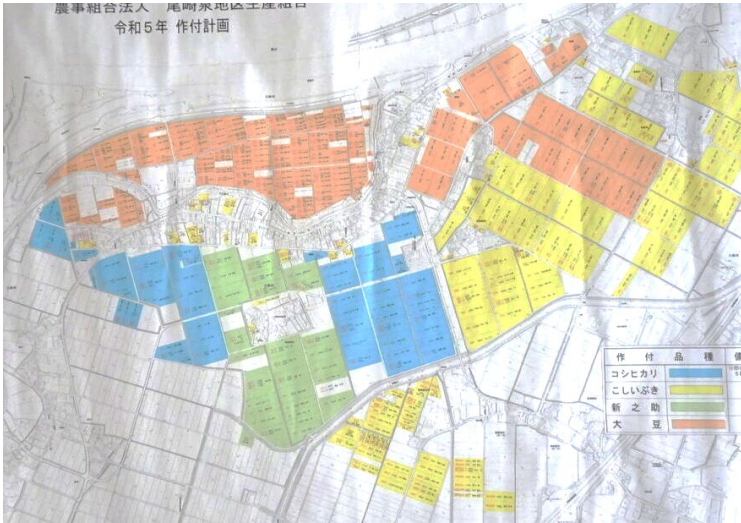


栽培上の特色

- 前作の水稻収穫後に、弾丸暗渠(又は心土破碎)と明渠の施工、前々耕起を行い、播種前耕起を行う。
- 稲わらのすき込みの他、一部圃場には、粉碎した粃殻を散布。
- 防除は、無人ヘリコプターによる散布を委託。

経営上の特色

- 地域(7集落)の大豆生産を統括。
- 3年サイクルの大規模ブロックローテーションと3～4カ所の団地化による効率的な栽培と用水利活用を実現。



ネットワーク大津株式会社(熊本県大津町)

設立年月 平成25年7月5日

(前身:陣内ランドホルダー 平成19年1月19日設立)

構成農家 287戸(13の集落持株会と本社で構成)

基幹作物 大豆103.9ha(フクユタカ、そらみのり)

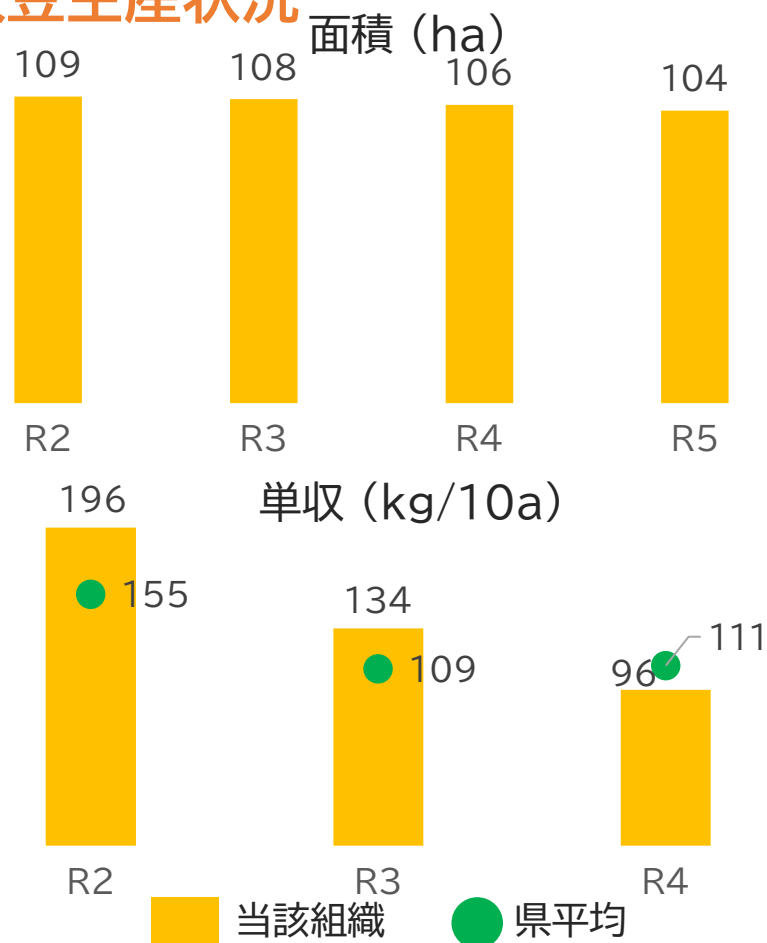
水稲(主食用、飼料用)158.3ha

小麦84.8ha、大麦150.8ha ※面積はR5年産

栽培体系 水稲－大麦/小麦－大豆－大麦/小麦(2年4作) ブロックローテーション 有



大豆生産状況



栽培上の特色

- スタブルカルチで耕転後、ペレット堆肥を施用。
- 適期作業に努める
- 産官連携による試験栽培の実施

経営上の特色

- 営農支援システム(KSAS)を活用し、農作業記録などを、各集落営農組織に共有し、栽培指導を行う。
- 飼料用米の栽培から混合飼料製造(TMRセンター)まで行い、近隣畜産農家に飼料を給餌し、耕畜連携を行う。